

岸和田市郷土文化室（自然資料館（自然史担当）・郷土史担当・文化財担当）

平成 22 年 7 月 1 日

懐かしいサボテン

畑中 義治

先日、孫たちをつれて和歌山県植物公園緑化センターに行った。花の広場を見て、わんぱく広場で遊び、次に温室の中を見て回った。最後にサボテンのところにきたとき、孫たちが、今まで見てきたきれいな花よりも興味を示した。その形やトゲがおもしろかったのであろうか？

その中に「メキシコ産」のラベルを見つけたので、つい懐かしくなり、話に熱が入った。というのも、私は、3年間メキシコに滞在したことがあるからだ。自然と大きな声で、まるで解説しているかのようにサボテンの話をしていたものだから、案内人とでもまちがわれたのか、私たちの周りに5～6人の女性が集まってきた。サボテンの話は、徐々に盛り上がり、女性たちは「最近サボテンに、ちょっと興味がある」などと言いだした。

「サボテンって、あんまり水やらんでええしな」

「場所もとれへんし」

「このごろは、もっぱら見るより食べる方で、〇〇アロエつくってるねん」

「テキーラ（アガベというリュウゼツランの仲間からつくる）って、そなんんしてつくってんやったら、健康のために、飲まなあかん（笑）」

「ところで、月下美人の花のてんぷら、おいしいんやで」

「そんなこと聞いたら、メキシコに行きたくなってきたわ～」

などなど、もうすっかり孫たちがいることを忘れて話し込んでしまった。

サボテンとは、サボテン科に属する植物の総称で、多くは多肉植物として知られている。多肉植物といえば、昔はどの家にも「医者いらず」といわれるアロエ（ユリ科アロエ属）が植えられていたし、サボテンも昭和30年代に大ブームになった。アロエは、最近では、化粧品や健康食品にも使われているようだ。

メキシコ滞在中には、サボテンとの出会いは日常的であった。国旗にはウチワサボテンがデザインされているほど、メキシコではサボテンが身近な植木、あるいは雑草のような存在であった。また、ノパールといわれるウチワサボテンは、食卓にもよく出てくる。メキシコシティー周辺の中央高原地帯では、ノパールは5月ごろに美しい黄色の花が咲く。また、「トゥナ」と呼ばれるノパールの実には、食用にされ、種は多いが甘みがあり、とてもおいしい。個人的には、世界中の果物の中で最もおいしいのではないかと考えている。ノパールは必須アミノ酸ほか、栄養価に富み、乾燥地域に住む原住民の生活を支えてきた。血液中の中性脂肪値を下げる働きがあることから、これから日本でも、健康食品として注目されるかもしれない。ちなみに、ウチワ状の部分は普通の植物では「茎」に相当し、トゲが「葉」に相当する部分である。

メキシコ滞在中、「サボテン博士」といわれていた日系人の方に、数回、サボテン公園を案内してもらったことがある。サボテン公園は、プエブラ州サポティトラン・サリーナス周辺にあり、どこからどこまでかわからないほど広大な面積で、付近一帯、亀甲柱^{きっこうちゅう}と呼ばれているハシラサボテンで高さが6～7 mもある、まるで電柱のような針山が延々と続いている。成長のスピードが年間1～2 cm位と言われているので「樹齡」300～400年と推定される。懐かしい西部劇に出てくる弁慶柱^{べんけいちゅう}というハシラサボテンも、ほぼ同じ大きさである。

そのハシラサボテンの根元には、大小さまざまなサボテンが足の踏み場のないほど広がっている。写真に収めれば、すぐに「サボテン大図鑑」ができるほどの種類が見られる。一応、事務所らしき建物があり、その一角に鉢植えが並べられている。みやげものの販売と思いきや、それは税関で没収されたものである。マニアにとってはたまらない品種だということだ。国内では自由に持って帰ることができても、国外には持ち出せないからである。

以前、秋篠宮様がメキシコに来られた時「どこに行きたいですか」とお尋ねしたところ、「サボテン公園」と答えられたそう。大使館としてはピラミッドとか人類学博物館などと予想していたので、てんやわんやしたそうである。「どうしてですか」と宮様にお尋ねしたところ、恩師が「メキシコを訪問する機会があれば、ぜひサボテン公園を」と言われたそうである。ついつい、そんなことを懐かしく思い起こしていた。



サボテン公園の風景

[サボテンについての、意外な豆知識]

- ・日中よりも夜に成長している。
- ・砂地でなく、細かい土（土漠）に自生している。
- ・平野でなく、山に自生している。
- ・雨が降らなくても、結露で育っている。
- ・小さい頃は強い光を嫌う。
- ・寒がりではあるが、弱くはない。
- ・水を好む量は種類によって異なるが、ほとんど大好きである。

＝サボテンを通して、大自然のおもしろい不思議がいっぱい発見することができる＝

（はたなかよしはる：自然資料館アドバイザー）

一石二調？

山岡 邦章

写真1は先日行なわれた、岸和田城二の丸での発掘調査での調査区です。二の丸ではこれまで、はっきりと江戸時代だとわかる遺構面が確認できていませんでした。



写真 1. 岸和田城二の丸での発掘調査の様子

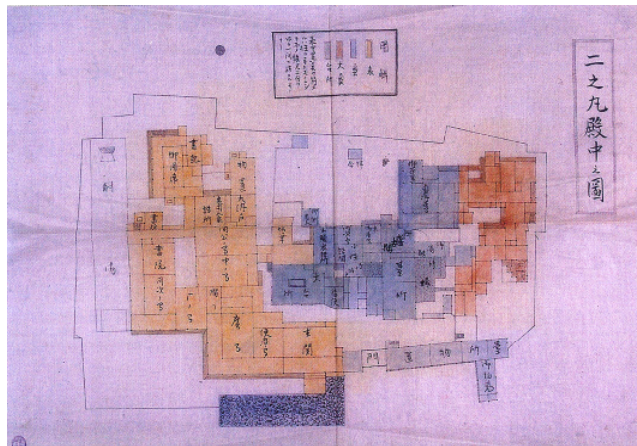


写真 2. 二の丸の絵図

岸和田城の二の丸には、二の丸御殿が建っていました。ここは、江戸時代、藩主とその家族が住み、実際の政務が行なわれた場所です。

写真 2 は、岡部家の所蔵品が後に泉光寺に伝わったという二の丸の絵図です。郷土文化室の図録『泉光寺と岸和田藩主岡部家』に掲載されています。写真は参考として図録より転載しました。

これを見てゆくと現在はただの松が植わった広場なのですが、実は江戸時代には豪壮な建物が建っていたのがよくわかります。市民からのお問い合わせで、よく御殿が建っていたと説明するのですが、なかなか想像できない状況です。

写真 1 の真ん中上に白っぽい石があるのがわかりますでしょうか。下に拡大した写真 3 があります。これは、江戸時代の二の丸御殿の建物の礎石です。和泉砂岩を平たく割ったものです。野球のホームベースよりやや大きめの大きさがあります。

石は一つだけなのですが、この石が出てきたことによって、発掘調査ではじめて江戸時代の遺構面が確定でき、さらに建物の位置がはじめてわかりました。ただし、これだけでは絵図のどの位置の建物なのかは残念ながらわかりませんでした。

・・・ここまでは、普通の歴史・考古学のお話です。でも、この fromM は自然資料館の冊子でもありますので、さらにもう一掘り話を掘り下げてみましょう。

写真 4 を見てください。同じ礎石を別の方向から撮影してみました。石の表面に筋状の模様が入っているのがわかりますでしょうか？この筋状模様、実は和泉砂岩に時折見られる「コダイアマモ」という化石なのです。アマモの一種と考えられていましたが、実は生痕化石であるという説もあります。その化石が石の表面にはっきりと見えるのです。

岸和田城の石垣は主に和泉砂岩で作られています。時折こういった形でコダイアマモが確認できたりす



写真 3. 江戸時代の岸和田城二の丸御殿の礎石



写真 4. 礎石の中に見られたコダイアマモ

るのです。

この石は御殿建築当初から廃藩置県までこの平面の上に建物の柱を乗せ、その後はずっと埋まっていた。そして今年の2月にやっと日の目を見ることができたのです。もちろん、江戸時代の人はこの石を化石とわかって、わざとこう置いたわけではありません。・・・さすが大名の御殿、ただの石ではなく化石入りの石を特別に・・・ではなく、たまたま化石が入っていたためこの面で平たく割れ、それを礎石にしたのでしょう。

普通の化石でしたら発見されると採取されますが、ここは大阪府の史跡です。むやみやたらと掘り返すわけにはいきません。ましてや今回初めて、唯一確認できた二の丸御殿の礎石です。私も化石は好きなのですが、残念ながら、この化石は調査終了後、土嚢^{どのおう}を敷いて保護した上で丁寧に埋め戻しました。

(やまおかくにあき：郷土文化室)

information

■岸和田城の展示案内■

企画展「新収資料展―市民から寄せられた文化財」

平成20年度以後に本市へご寄贈いただいた資料の中から、郷土の歴史資料や、美術工芸資料など約50点を紹介します。

- ・会 期：2010年7月14日(水)～9月26日(日)
- ・入場料：大人300円 中学生以下無料
- ・時 間：午前10時～午後5時
- ・休場日：月曜日(7/19、9/20は開場)
- ・主な展示資料：岸和田町全図／犬養毅書簡／岸和田学校下等小学全科卒業証書／刀(江戸時代)ほか
- ・問合せ先：郷土文化室(TEL:072-423-9689)

■きしわだ自然資料館のイベント案内■

海の日講座チリメンモンスターを探そう

海の日を記念して、チリメンモンスター実習を行います。

- ・日 時：2010年7月19日(月曜・祝日)14時00分～15時30分
 - ・場 所：きしわだ自然資料館1階ホール
 - ・講 師：自然資料館スタッフほか
 - ・費 用：無料
 - ・申 込：当日13時30分から15時00分まで受付
- *材料がなくなり次第終了します。参加者多数の場合

はお待ちいただくことがあります。

漁港探検とチリメンモンスターさがし

チリメンモンスターさがしを行った後、岸和田漁港におじゃまして、漁獲物を観察しましょう。

- ・日 時：2010年8月8日(日曜)13時30分～16時30分
*荒天などで、漁が行われない場合は、チリメンモンスター実習のみとなります
- ・場 所：きしわだ自然資料館・岸和田漁港
- ・講 師：日下部敬之氏(府立水産技術センター)ほか
- ・定 員：小学生以上40名(小学生は保護者同伴・幼児同伴不可)
- ・費 用：一人50円(保険代)
- ・申 込：往復はがきか電子メール(携帯電話からは不可)で、7月1～7月12日(必着)の期間に、保護者を含む参加者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、自然資料館「漁港たんけん」係までお送りください。申込者多数の場合は抽選となります。

※お願い [fromM]は、学校教職員に1部ずつお配りください。

担当の方はお忙しいところ申し訳ありませんが、よろしくお願い申し上げます。

【from M】では、みなさまからのご意見、ご感想、ご質問等をお待ちしております。博物館での学習、研究等に関する情報、地域の自然環境や歴史に関する面白いトピックスなどがありましたら、ぜひご投稿ください。お名前、連絡先、所属等をご記入の上、右記の宛先までお送りください。電子メールでも受け付けています。

連絡・問い合わせ先

〒596-0072 岸和田市堺町 6-5 きしわだ自然資料館
TEL: (072) 423- 8100 FAX: (072) 423- 8101
Email: sizen@city.kishiwada.osaka.jp
自然資料館ホームページ URL:
<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/site/shizenshi/>
Yahoo Japan の検索で「きしわだ」と入力し、検索すれば、簡単です)